

令和4年度小平市立鈴木小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

- ・全体の正答率は、全国・都平均よりも高い。
- ・観点別に見ると「知識・技能」は全国・都平均よりも10ポイント以上高く、「思考・判断・表現」の正答率は都の平均よりも、3～5ポイント以上回っている。

課題

- ・「思考力、判断力、表現力」の記述式の問題においては約20%が無回答であった。
- ・領域別に見ると「書くこと」に関する問題の正答率は60.7ポイントと他の領域に比べて低かった。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・話し合いや学び合いの場を多く設定し、言葉の違いによる感じ方の違いに着目する学習を通して、語彙を増やし、言語感覚を豊かにしていく。
- ・多様な文章の書き方の特徴を確認し、目的にあった書き方を選び取れる力を育てていく。
- ・情報を整理する時間を確保した上で、発表場面を増やすことで、相手や目的に合わせた言い方の定着を図っていく。

【算数】

状況の分析

- ・全体の正答率は全国・都平均よりも高い。
- ・観点別に見ると「知識・技能」は2～5ポイント「思考・判断・表現」は9～13ポイント全国・都平均よりも上回っている。
- ・児童質問紙より「算数の学習は大切である」や「将来役に立つか」という質問では、約90%近くの肯定的な回答であった。

課題

- ・図形や割合の問題の無回答が多かった。
割合（4.8%）図形の判断（7.1%）
図形の構成要素（4.8%）
- ・領域別に見ると「B 図形」「C 変化と関係」の領域について課題が見られる。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・考えをもつ時間を十分確保し、考えの伝え合いを通して共有し解決に取り組む活動を多く取り入れることで、多様な解決方法を見出し、一人一人の思考力・表現力をさらに高めていく。
- ・無回答が多かった「B 図形」「C 変化と関係」では、身近なものや日常生活から学習課題を設定し、課題解決を図っていきます。また、東京ベーシック・ドリルを活用した復習の時間を十分に確保して、基礎基本の定着を図っていく。

【理科】

状況の分析

課題

- 全体の正答率は、全国平均よりも4～5ポイント高い。
- 観点別に見ると「思考・判断・表現」の正答率は約6～9ポイント上回っていた。

- 「知識・技能」の正答率は、やや低かった。特に実験器具の名称の問題（短答式）では、全国都平均よりも低く、無回答率が約12%あった。

学校で取り組む具体的な改善策

- 実験に必要な器具などの名称を毎回指導し、基礎知識の定着を図っていく。
- 実験結果を身近な事例につなげることで、理科の有用性に気付かせ、普段の生活に生かそうとする姿勢を育てていく。
- 学習課題を設定する際にも、身近な事例と結び付け、日常との関連性に気付きから設定することで、児童の主体性を高め、興味関心を高めていく。

【質問紙】

状況の分析

課題

- 「自分にはよいところがある」「自分で決めたことは最後までやり遂げる」という質問では、80%以上の肯定的な回答があった。「失敗を恐れないで挑戦する」ことは、肯定的な回答が75%あり、全国・都平均よりも高い。
- 「学級の友達との話合いで自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」という質問に86.3%の児童が肯定的な回答であり、全国・都の平均より5ポイント以上も高い。
- 「困っているときには進んで助けたい」「人の役に立ちたい」ということに関して肯定的な回答が86～90%であった。

- 「睡眠」に関する質問では、「就寝時間を守れているか」は約80%「起床時間を守れているか」約70%の児童が守れていると回答しており、起床時間のばらつきが見られた。
- 「困りごとや不安があるとき、先生や大人に相談でできるか」という質問では、「当てはまる」が36.4%「どちらかという当てはまらない」が34.1%と二極化が見られた。

学校で取り組む具体的な改善策

- 起床時間については養護教諭の保健指導を通して見直しを図り、更なる規則正しい生活の習慣化を図っていく。
- 「誰かを助けたい」という気持ちが高い反面「自分の不安を相談する」ことについては、あまりできていない児童も見られるため、ふれあい月間でのアンケートや丁寧な聞き取りを心がけ、児童の悩みや不安を受け止め、SCの活用などをして、「困ったときには安心して誰でも相談できる」という環境を整えていく。